



慶應義塾大学ビジネス・スクール

日系ブラジル人実業家 —株式会社イマイ 今井譲治氏—

5

1980 年代、南米諸国を襲った恐慌と日本のバブル経済の影響、そして 1990 年の入管法の改正で、大勢の日系ブラジル人が「デカセギ（出稼ぎ）」のため来日することとなった。その結果、1990 年の在日ブラジル人の数は 56,429 人であったのが、2006 年には 312,979 人となり、15 年間で約 5 倍になった（図 1 参照）。

今や日本の製造業にとって、出稼ぎ日系ブラジル人の存在は生産の一翼を担う労働力として欠かせないものとなっている。そのような中、在日日系ブラジル人をターゲットとしたビジネスで成功を収めている、日系ブラジル人が経営する企業がある。

10

株式会社イマイ（以下、イマイ）はそんな企業のひとつである。株式会社イマイはブラジルを始め、南米、ラテンの食材をメインに、酒類・ジュース類・チョコレート・ケーキ・スナックなどの菓子類、冷凍食品・缶詰・穀物・調味料などの食材、アクセサリーなどの雑貨類を輸入するとともに、それら商品の卸売事業、小売事業を営んでいる。

15

ケース・ライターは、イマイのような小規模輸入企業が大手商社の向こうを張ってビジネスを展開し、成功している理由を探るため、同社社長の今井譲治氏にインタビューした。

ケース・ライター：イマイが設立された当初のことについて教えて下さい。

20

今井：イマイは日系ブラジル人 1 世である私の父親が作った会社です。もともとは日本からブラジルに商品を輸出する会社でした。現在と全く逆をやっていました。高度経済成長期に多くの日本企業がブラジルに進出していった際に、大きなものでは製造機械から、小さいものではブラジル駐在の日本人の欲しがる日本の食料品などを扱っていました。1974 年に、ブラジルで輸入がストップする条例がでました。仕事がなくなってしまった訳です。それをきっかけに、ブラジルの

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8523 神奈川県横浜市港北区日吉本町 2 丁目 1 番 1 号、電話 045-564-2444、e-mail:case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/>へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

Copyright©渡辺直登、大森晶子（2008 年 3 月作成）